

はっぽう

議会だより

藤里学園を視察
学校再編、八峰町は？
(関連記事13ページ)



6月
定例会

特集
来年4月の町議会選挙までに知りたい！
知っておきたい議会のこと 2ページへ

- 6月定例会…………… 4ページ
- 町政を質す 一般質問…………… 6ページ
3名の議員が町の方針を問う
- 全員協議会……………10ページ
- 起こす継ぐ……………14ページ
第13回 白神こだま酵母 ボスケット

起こす 継ぐ

町の産業を担う 若手経営者たち 第13回

白神産地から発見された酵母を使ったパン屋さん

白神こだま酵母 ボスケット
パン職人 工藤 龍さん



八森にあるパン屋さん「ボスケット」の工藤龍さんにお話を伺ってきました。
パン屋さんを始めたきっかけは、白神ネイチャー協会会長だった父親が白神こだま酵母の採取に立ち会った事と、映画「白神の夢」で父親が仲良くなった秋田で白神こだま酵母を使ってパンを作っている方と出会い、「地元にもパン屋さんがあればいいね」と話し合ったのが始まりでした。

当時は東京の運送屋で働いていましたが、田舎で子育てしたい思いもあり、「妻に相談したところ、小さい頃の夢が『パン屋さんをやりたい』だったと話してくれた」とのことで、本人よりも乗り気になって賛成してくれたそうです。

その後運送屋をやめ、1年間秋田市のパン職人の元で修業をして2004年4月に開業しました。

全商品白神こだま酵母を使用しているパンの中でも、特に龍さんおすすめの商品はクロワッサンです。多くのお店は生地を購入して焼いていますが、ボスケットでは全て手作りで、一般的に生地とマーガリン系の油脂を折り込んで作るのを100%バターを折り込んで作っていて、他店ではなかなか作られ

ないそうです。
今後の展望を聞くと、「値上がりもすると思うが品質を落とすとはなくはないし、おいしくないとあればお客さんは来なくなる。お客さんにおいしいと思って貰えるパンをこれからもずっと作り続けたい」と話してくれました。

取材は平日の午後3時頃にお店に伺いましたが、商品はほぼ完売していました。休日は午後2時から3時頃には完売する時もあり、忙しい時はお客さんの来人数に対応できるくらいのパンを作れない時もあるそうです。

今年の4月に21年目を迎えたボスケット。地元に戻ってきて奥様が子供の頃に言っていた「パン屋さんをやりたい」という夢も叶えた龍さんが焼いたおいしそうなパンの香りが店内に漂っていました。

(取材：伊藤 一八)



工藤さんおすすめのクロワッサン
【白神こだま酵母】
低温に強く、パン作りに適した酵母。国産小麦と相性がよく、ほんのり甘いパンになるのが特徴。

住所 〒018-2671
秋田県山本郡八峰町八森湯の尻23-8
電話 0185-77-2889
営業時間…9:30~18:00
定休日…月曜日
公式Instagram



- 議会広報編集委員会
- 委員長 山本 優人
- 副委員長 奈良 聡子
- 委員 伊藤 吉子
- 委員 笠原 一子
- 委員 見上 政子

昨年行政視察で訪れた茨城県境町では、ふるさと納税額を伸ばし「話せる英語教育」等により、人口減少を克服していた。今年は北海道白糠町を訪ねる予定となっている。白糠町もふるさと納税に特化した町である。

令和5年度の納税額を比較すると、境町では99億4千万円、白糠町では167億8千万円である。八峰町では8千4百万円とその差は歴然となっている。

人口減少により、各自治体ともに財政難に喘いでいる。思うような行政サービスが来ず人口減が進む負の連鎖である。これを克服するには稼ぐ町になるしかない。ふるさと納税額を伸ばし稼げる八峰町になるよう、視察の成果を生かしたい。

(記 笠原 吉範)

編集後記

八峰町では2つの常任委員会で、それぞれの分野を分担して調査・審査しています。ほかにも特別委員会、議会運営委員会、広報編集委員会があります。



特別委員会

特定の問題について話し合うため、必要に応じて設置する委員会です。

議会運営委員会

議会の進め方などについて話し合います。

広報編集委員会

年4回、議会だよりをつくります。

3. 1年間の議会の流れは？

八峰町では年に4回「定例会」が開かれ、予算や条例などの議案について審議します。(3月、6月、9月、12月) その他、緊急の審議を行う「臨時会」も必要に応じて行われます。

3月定例会は新年度が始まる前の議会なので、「予算特別委員会」を設置し、新年度予算を審査します。9月定例会は町の会計が5月末で出納閉鎖となるので、「決算特別委員会」を設置し昨年度の決算を審査します。このため、3月と9月の会期は10日間程度となります。6月と12月の会期は3日間程度です。



定例会では、議員が町の取り組みや問題点について質問したり、提案したりできます。これを「一般質問」といいます。これに対し、町は今後の進め方や問題解決の考え方を答えます。一般質問により、町民の代表である議員が町の考え方をチェックし、町民の思いを行政に反映させることができます。

4. 八峰町の状況は？

全国、秋田県の町村議会との比較です。あなたはごどう思いますか？(令和6年7月の数字)

	全国(町村)	秋田県(町村)	八峰町
年齢	30代以下 2.9% 40代 8.6% 50代 14.7% 60代 34.6% 70代以上 39.3%	30代以下 0人 40代 11人 50代 20人 60代 47人 70代以上 60人	30代以下 0人 40代 1人 50代 0人 60代 4人 70代以上 7人
月額報酬	最低額 10万円 最高額 40万円	最低額 18万6千円 最高額 25万5千円	23万3千円 (合併当初から変更なし)
女性議員	1,478人(14%) ※うち議長44人(4.8%)	15人(12%)	2人(17%)
選挙	令和4年までの4年間に、全国926町村のうち4分の1を超える254町村が無投票。そのうち31町村が定員割れ。		令和8年4月予定 令和4年4月は立候補者が12名で無投票となった

特集

知っておきたい議会のこと ~第1回~

議会のしくみを説明します

八峰町議会は、来年4月に任期満了による議員選挙を行う予定です。「しっかり考えて投票したいけど、町議会のことはよく分からない」「今の八峰町議会のしくみを知りたい」「議員に立候補したい」と町民のみなさんの思いは様々だと思います。

そこで今回から、議会についてもっと知ってもらうための連載を開始します。

1. 議会の役割ってなに？

町民が八峰町を住みよい町にするためには、みんなで話し合い、その意見を町長に伝える必要があります。そこで町民の中から代表の人(議員)を選び、町に関するさまざまなことを話し合うのが八峰町議会です。

議員は、一人一人が町の予算や条例案に賛成・反対が出来る権限を持っています。町の政治に対し、監視・提案・決定する役割を担っています。

同じく町民から選挙で選ばれた町長と、相互に相談・抑制・協力しながら、よりよい町づくりをめざします。

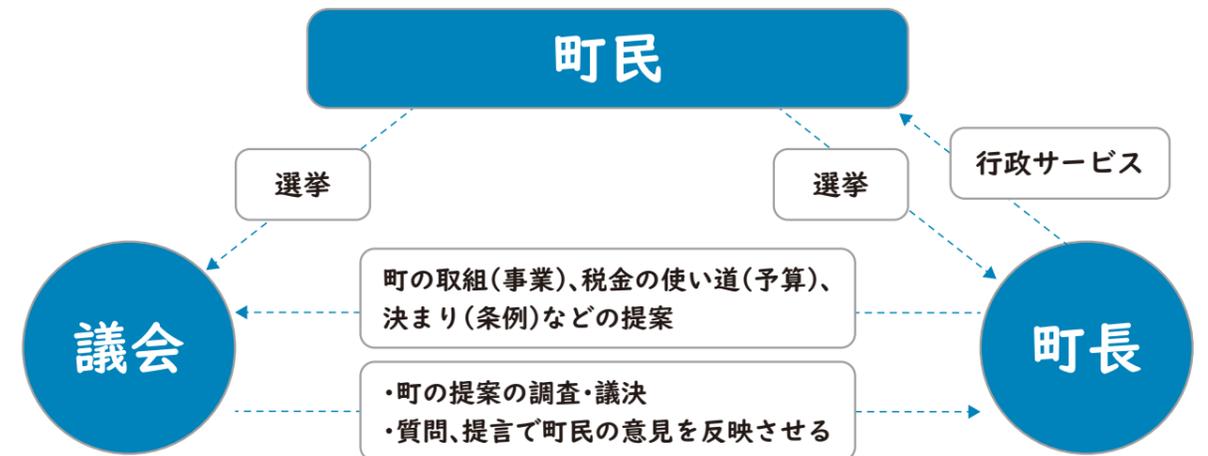
八峰町の議員の定数
12人

議員の任期
4年

(現在の議員は、
令和8年4月22日まで)

ポイント 日本の地方自治制度「二元代表制」とは？

執行機関の長(町長)と審議などを行う議会議員の両方を、町民がそれぞれ選挙で選ぶ制度のことです。これにより、町民の代表機関である「町長」と「議会」が別々で対等な立場となり、お互いに間違った方向に行かないように議論を重ねながら町づくりに取り組みます。町長と議会の関係は、車の両輪にたとえられます。



2. 議員はどんな活動をするの？

議員の主な役割は次のとおりです。

- | | |
|---|--|
| <p>①本会議・委員会への出席</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会(定例会・臨時)への出席 ・常任委員会への出席 ・特別委員会への出席 ・議会全員協議会、議員懇談会への出席 ・議員、委員派遣(広域議会や協議会へ) など | <p>②その他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会、議員としての住民対話 ・研修会への出席 ・議会だよりの編集 ・町内行事、団体行事への出席 ・請願の相談、受付 など |
|---|--|

議案の内容や町政を理解するため、議案書の精読・情報収集などもあります。



6月定例会（6月11日～13日）では、条例改正や工事契約など12議案を審議し、すべて可決しました。

また5月16日に令和7年第3回臨時会を開催し、条例改正と補正予算など6議案を審議し、すべて可決しました。

条例規則

9件

補正予算

7件

工事

2件



6月定例会では、御所の台エリア再構築について様々な意見が出された。

補正予算

(令和7年度一般会計)

御所の台エリア再構築に**賛否分かれるも可決****議案の内容**

○コロナ禍で変化した観光・旅行ニーズに対応した御所の台エリア未来ビジョン（*）の策定経費100万円。

○建設中のごみ処理施設の建設費増額により、町の負担金6973万7千円追加。

○物価高騰対策として、トラック運送事業者の経営安定化補助金11万3千円。酒米・加工用米の価格高騰対策として、酒蔵・寿司加工販売業者に地場産業強化のための補助金105万円。

○国の内示により事業費が増額されたことから、町道大沢大野線道路改良工事に1198万5千円、水沢橋橋梁補修工事に4500万円追加。

議会から町へ（質疑）**御所の台エリアの構想はどうか****質問**

御所の台エリア未来ビジョンの策定経費100万円が計上されているが、風力発電事業など大手業者によるかじ取りとなるのか。

様々な人の意見を反映させる

答弁 風力発電事業者によるかじ取りではない。ワークショップなどで多様な人や事業者の協力・意見をもらう。今後は、住民代表の参加者を増やすなどし、その知見を基に町の将来に向けてのビジョンを作成する。

ごみ処理施設の建設費は今後も増えるのか

質問 昨年3月に続き、今回また建設費増額の変更契約となった。完成までにまた増額があるのではないのか。また、増額となった分は国の補助金が出るのか。

来年3月までに完成予定

答弁 完成までに急激な物価高騰が無い限りは建設費は変わらないと推測する。増額は国の補助対象となる前提で請求する。

町内事業者の物流に対し強力な支援を**質問**

トラック運送事業者経営安定化支援事業の対象となっていない魚の卸業者や、個人経営でダンブをやっている人などにとっても、燃料の高騰は大きな負担となっている。もっと間口を広げて支援できないか。

支援が幅広く行き渡るよう検討

答弁 国からの交付金を活用した事業のひとつであり、全体の交付金事業が完了した時点で事業費が余るようであれば、さらに物価高騰により困っている町民への支援を検討したい。

未来ビジョンとは？

2月4日に開催されたワークショップ（研究集会）をベースに、実際に地域で活動している人や事業者がメンバーとなる。ワークショップやモニターツアーなどを通じ、御所の台エリアを中心にした八峰町全体のまちづくりのビジョンを描くもの。



2月4日に開催されたワークショップの様子。町内から商工会、観光協会、地元住民などが参加。町外からはモンベルや風力発電事業関係者がオンライン等で参加した。

御所の台エリア再構築に賛否の討論 賛成6 反対4で可決

菊地 前町長がハタハタ館の赤字改善のために踏み込んだのが原点と認識している。計画期間が令和12年度以降まで続くようだが、立地や環境を考え身の丈にあった計画にするべき。

見上 風力会社やモンベル等の企業が御所の台未来ビジョン会議に参加し、それらの企業が掲げたことが計画のベースになるのは町民は納得できない。

須藤 前町長による御所の台エリア再構築事業だが、継続しない方向に舵を切るべき。具体性がなく、進めても人が呼べないのではないか。

反対討論

山本 観光を成り立たせるには外部の意見も必要。資源の無い町として、色んな取り組みをしなければいけない。

芦崎 難しい事業であるが、町長の手腕を期待し賛成。

賛成討論**一般議案（工事）****令和5年豪雨災害の****復旧工事を契約****議案の内容**

○町道泊沢線（泊川左岸）の復旧工事で、舗装面積が増加したことにより25万1900円増額

令和7年第3回臨時会**一般議案（条例）****八峰町税条例****議案の内容**

○地方税法の一部改正に伴い、町の条例も個人住民税、軽自動車税、町たばこ税などについて改正。

反対討論

見上 国は低所得者の住民税基礎控除や、大学生の年収の壁について施策をとるべき。（賛成多数で可決）

国民健康保険税条例**議案の内容**

○地方税法の一部改正に伴い、町の条例も課税限度額の上限の引上げなどについて改正。

反対討論

見上 米価の値上げで農家の収入が増えることにより、限度額増で負担が大きくなるため、反対する。（賛成多数で可決）

賛否が分かれた議案などの採決結果

過半数の議員が反対した場合、その議案などは否決・不採択となります

○：賛成 ●：反対 欠：欠席

議員氏名	笠原吉範	伊藤一八	奈良聡子	芦崎達美	水木壽保	菊地 薫	腰山良悦	見上政子	須藤正人	門脇直樹	山本優人	皆川鉄也	議決結果
八峰町税条例の一部を改正する条例制定について（専決処分）	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	議長は採決に加わりません	承認
八峰町国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について（専決処分）	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○		承認
令和7年度八峰町一般会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	欠	●	●	●	●	○	○		可決



やまもと ゆうと 山本 優人 議員

山本 町を活性化するには、若者の定着も含めた起業家支援の推進が必要。開業資金などの優遇策を地元の金融機関と連携して、新たな支援策や資金を創設していくことが望まれる。

町長 商工会では学生と企業と一緒に課題解決に取り組む「事業参加型インターンシップ事業」に着手しており、顧客の満足度向上やマーケティングに関する業務を行っている。町内事業者は家族・親族経営の小規模な経営形態であるほか、コンビニの利用者数の増

山本 人口が減り続けている町内産業は、消費額が減少しており商店の廃業が生じている。減った人口分の消費額を補うためには、観光に力を入れることが必要だ。インバウンドに特化した観光の推進や、サイクリングでの町内周遊観光やフットパスでのジオパークの拠点間を散歩する観光など、観光消費額を増やす手段としてサイクルツーリズム（自転車を使った観光）と、フットパス（歩く町中観光）を

町長 宿泊と観光、体験をセットにした旅行商品がないことや、複数の観光ポイントを効率的に回る移動手段が少ないこともあり、通過型観光から収益性の高い滞在型観光への移行が進んでいない。多様な関係者と連携しながら、白神のネームバリューを生かした「選ばれる商品づくり」に取り組む。今後、既存観光資源の磨き上げや歴史・文化的価値の再確認を行

うとともに、「地域主体の取組強化事業」を通じて、御所の台エリアの高付加価値観光に取り組んでいく中で、「サイクルツーリズム」や「フットパス」の導入を検討したい。



フットパスとジオパーク観光を組み合わせられないか

新規起業家の募集を

町長 起業型協力隊 制度を活用

観光消費額の増加を

町長 新たなツーリズムに取り組む

ここが聞きたい

ただ 町政を質す!!

3人の議員が一般質問

6月定例会では3人の議員が町政について質問しました。

p 7 山本 優人 議員

- 1 新規起業家支援について
- 2 稼ぐ観光（ニューツーリズム）導入について

p 8 奈良 聡子 議員

- 1 風力発電事業者の安全対策等について
- 2 防災力の向上及び防災訓練について

p 9 見上 政子 議員

- 1 投票所減少は投票率低下に繋がる
- 2 学校給食費無償化とエアコン購入支援
- 3 風力発電の事故防止対策



↑議事録はこちら



掲載している内容は、広報編集委員会で要約・校正したものです。全文が掲載された議事録はホームページでご覧いただけます。6月定例会の会議録については作成中です。完成後すぐに掲載いたします。

一般質問とは？

町のさまざまな課題について、議員が住民の声や自身の考えを元に、提案も含めて町の方針を問うものです。



奈良 聡子 議員

風車と生活圏離すべき

町長 県の検討会等で
話題にしたい

奈良

5月に秋田市で風車のブレード破損落下によると思われる痛ましい事故が発生し、風車の安全性が全く確保されていないことが露呈した。

すべきではないか。

町長

町民の安全を安心に繋がるものと考え、点検結果を広報やホームページに掲載したい。

奈良

風車設置場所への立入規制を検討する考えは。

町はこれを受け、町内で風力発電を稼働している10社に対し点検の頻度等について質問した。回答内容を公表

商工観光課長

現時点では町に法的権限がなく、立入規制できないと考える。

奈良

事故を契機に事業者に厳格な点検を求めている。

町長

点検に対して意見が言える仕組みづくりを、県等と連携し国に働き

かけた。
奈良 今後は陸上風力発電の設置計画が分かった段階で、生活圏からなるべく離すよう申し入れをすることが必要。

町長

来月開催の県と設置自治体による検討会等で、風車と住家との距離を話題にしたい。

町オリジナルの防災グッズを

町長 実現に向け取り組む

奈良

住民の防災意識の高まりを個々の防災力に繋げるには何が必要か。防災士の資格取得者を増やす考えは。

また、防災訓練に

小・中・高生など広い世代が参加しやすい工夫が必要ではないか。

町長

自助のための基礎知識を身に付けることが大切。発災時の避難行動を広く周知していく。防災士の増員は必要であり、チラシや公式LINEにて防災士養成事業の参加者を募集する。

町長

防災訓練については、日本海中部地震発生日周辺の日曜早朝に実施し、幅広い世代が参加しやすいよう配慮して

きた。今後は関係自治会や教育委員会と連携し、積極的な参加を促していく。

奈良

モンベル社とのタイアップによる町オリジナルの防災グッズの企画販売で、防災に対するハードルが下がり、ふるさと納税の返礼品にすることも可能では。

町長

非常にいいアイデアだ。コスト等幅広に検討し、実現に向けて取り組んでいきたい。

投票所減少は投票率低下に繋がる

町長 移動支援で
低下しないよう努める

見上

投票率向上の鍵は、交通弱者の高齢者に投票機会を保障することである。投票所が8ヶ所から3ヶ所に減少することで投票率の低下を招くことになる。

既存の地域に期日前投票所を期間限定で設置しないか。

町長

期日前投票所を増やすと多くの立会人を確保する必要があり、実施は困難であると考え、ファガスと峰栄館に期日前投票所を設置し、選挙管理委員会へ電話するとデマンドタクシーが送迎する予約体制をとる。



峰栄館に設置された期日前投票所

当日投票所は役場庁舎を含め3か所となり、今まで通り移動支援バ

スを運行し、投票率が低下しないよう努める。

風力発電の事故防止対策は

町長 徹底した
安全対策を講じる

見上

秋田市で風力発電機の羽根が落下した事故機と同じ機種が当町に1基ある。

岩手県では同機種の風力発電12基が停止した。稼働停止を求め、ガイドラインに「事故機は稼働停止」という一文を書き加えないか。

環境省のアセスメントが必要な大型機種は、年1度の安全点検を報告する義務を課すとい

町長

事業者稼働を停止させる法的権限は町にない。

ガイドラインは県が主催する「陸上風力発電設備にかかる安全対策会議」を踏まえて検討する。国へ安全基準や点検方法について見直しを働きかける



見上 政子 議員

給食費無償化とエアコン購入支援を

町長 大事な意見として
受け止める

見上

国の令和6年度予算で措置された物価高騰対応重点支援交付金が推

奨メニューの事業に活用されたが、配分された交付金は使える残高がまだあるのではない

がまだあるのではない

議会全員協議会から

町から議員へ
事業説明

4月22日、5月30日に開催され、3件の協議と6件の報告を受けました。今回は協議1件、報告2件をピックアップして掲載します。

用語説明 議会全員協議会

町が新しい条例や制度、重要な施策を定める時、議会（本会議）に提出する前に議員全員に事前説明し、意見を求めるときなどに開催されます。

【協議①】 御所の台エリア再構築、 新たな計画を 策定予定

町からの説明

「御所の台エリア再構築構想」を元に事業展開する予定だったが、「地域との合意形成」「財源確保」の問題のほか、手を挙げてくれる民間事業者も現れなかったことから、現実的・具体的な計画＝未来ビジョンが必要となった。
未来ビジョン策定に当たっては、

多様な関係者と連携しつつ、実際に地域で活動している人からも参加してもらい、御所の台エリアを中心とした八峰町全体のまちづくりが推進されるような内容としたい。

議員から町へ（質疑・意見）

問 御所の台エリア再構築は前森田町長の時から取り組んでいる事業。本当に必要な事業か、今一度、議論も必要なのでは。

答 就任前からの事業ではあるが、御所の台エリアは町の観光振興を進める上で重要な場所であると考えており、計画の策定に理解いただきたい。

問 ハタハタ館の経営改善につなげるため、早急に道の駅の移転を優先すべき。

答 単純に道の駅を移転しても活性化につながるかは疑問。計画をしっかりと策定した上で移転等を進めていきたい。

問 隣町の旧岩崎村、深浦町でもリゾート宿泊施設があったが閉館した。一度立ち止まって、しっかりその要因を検討すべき。

答 隣町の施設の閉館は把握しており、計画の策定にあたっては、そうした要因を踏まえ進めていきたい。

議員の中でも意見は様々で、「計画を一度白紙にしてはどうか」「成功させるために、じっくり取り組んだ方がいい」「元々は運営の厳しいハタハタ館のための道の駅移転であり、まずは早急に移転すべき」「身の丈に合った規模にするべき」などの発言があった。

年度	内容
令和元年	御所の台公園活用意見交換会
令和2年	3月定例会で「赤字決算の続いているハタハタ館を道の駅としてはどうか」と議員から一般質問。森田町長（当時）は「実現できればメリットも大きく、関係機関と協議する」と回答
令和3年	「道の駅はちもり」移転に向けた懇談会を開催
令和4年	10月 国際航業（株）に、御所の台エリア再構築構想の策定業務を依頼。
	11月 森田町長病気療養により町長辞任。
令和5年	12月定例会で「道の駅移転予算を新年度の予算で見ると早すぎるのでは」と議員から一般質問。日沼副町長（当時）は「道の駅は移転を第一に考えている」と回答。
	1月 堀内町長就任。
	2月 国際航業（株）による再構築構想に対し、再提出を依頼。契約期間を令和5年3月までのところを、6月末に変更。
令和6年	6月 国際航業（株）の企画案・イメージ図を全員協議会で議員に報告。
	12月 （株）モンベルとアウトドア活動等の促進を通じた地域の活性化と、町民生活の質の向上を目的とした包括協定を締結。御所の台エリア再構築にも参加してもらう。
令和7年	5月 「洋上風力発電を契機とした秋田の未来づくり会議」の場において、町長から「観光の再開発等に精通した専門家を紹介してもらいたい」と参加者に発信。
	9月定例会で「御所の台エリア再構築構想の具体的な動きは」と議員から一般質問。堀内町長は「重要となるタイアップ企業への情報共有を最優先で行っている」と回答。
令和7年	10月 まちづくりの専門家として、（株）チームネット甲斐氏の紹介を受ける。
令和7年	2月 甲斐氏も含めた、地元の町民・地元関係者、町外の協力事業者等によるワークショップを開催。

今後の計画	内容
令和7年～8年	御所の台エリアを中心とした町全体のまちづくりが推進されるような、実効性・実現性のある「未来ビジョン（計画）」を策定。
令和9年～11年	未来ビジョン第1期計画期間（早期に取り組むもの）
令和12年～	未来ビジョン第2期計画期間（必要性はあるが検討の余地があるもの）

【報告①】 町の公式LINEの 機能を拡充

町からの説明

現在の公式LINEは、一方的な情報発信のみだが、もっと便利で充実した機能を追加する。

【追加予定の機能】

①自分が欲しい情報に絞って受信できるセグメント機能

「子育て情報」や「災害情報」など、自分の知りたい情報を選べます。

②災害発生時の情報発信・避難所誘導

③LINEへの問合せにチャットボットで自動応答する機能

「乾電池はどっやって捨てるの?」「引っ越しに必要な手続きは?」などの文章に自動回答するプログラムです。

④申請・アンケート機能

⑤道路の破損等を住民が通報できる機能

議員から町へ（質疑・意見）
問 機能が充実するのはいいが、町からの情報発信が無ければ意味がない。それぞれの課で、情報発信の能力を高めてほしい。
答 現在は企画政策課がLINEの

意見 役場に目安箱を作してほしいという声もある。LINEで声を届けられるようにしてほしい。

【報告②】 AIの活用により 小中学生の 英語教育強化

町からの説明

小学校5・6年生と中学生を対象に、AI対話型英会話アプリを導入。現在使用している教科書に準拠した英会話アプリとして授業や家庭学習等で活用する。

AIを相手に教科書に沿った対話をするのが可能。さらに英会話の判定や、どのくらい上達したか測ることができる。

文部科学省が実施する事業で、全国46カ所で行うのは八峰町を含め5カ所。

議員から町へ（質疑・意見）

問 学校の先生に負担がかからないようにしてほしい。全国でも実施箇所が少ないので、視察の申込みが沢山来て現場が対応に苦慮するのでは。

答 できるだけ学校に負担がかからないように、文部科学省への報告も教育委員会が行う。



9月議会定例会お知らせ

9月 2日(水)	本会議1日目 行政報告 議案審議ほか 町から議案の説明を受け審議します
9月 3日(水) ～ 9日(火)	決算特別委員会 令和6年度の町の決算を審査します
9月10日(水)	本会議2日目 一般質問 町の施策や課題について、議員が質問します
9月11日(木)	本会議3日目 一般質問 ※休会の場合あり
9月12日(金)	決算特別委員会の審査報告、議案審議ほか

●会場：役場2階 大会議室
 ※開会は10時からです。終了時間は議案数、一般質問者数、進行等によるため未定です。
 ※議会では町民の生活に直結した重要な問題を審議しています。どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。また、団体での傍聴を希望する場合は議会事務局へご連絡ください。
 ※決算特別委員会は傍聴できません。
 (問合せ先：議会事務局 76-4607)

9月定例会では、令和6年度決算を審議します

自治体である八峰町は、住民の皆さんへの住民サービスを提供するために税金や交付金などの予算を管理しています。町の予算が、公正・効率的に使われているかを、町民の代表である監査委員と議員が審査します。

決算認定の流れ 税金や交付金などがどう使われたか



今月の表紙

藤里町と小坂町の学校を視察

学校等再編検討委員会では、7月1日に藤里町の「義務教育学校」と小坂町の「小中一貫教育」を視察しました。表紙の写真は藤里町の義務教育学校です。



小坂町立小学校の体育館

関係事業 学校等再編検討委員会

「学校適正化検討委員会」の検討結果を受け、学校再編や校舎の適正配置などを協議する委員会。議員のほか、学校・子ども園の保護者など28名の委員で構成されている。

令和6年12月定例会で、議員の「小中学校の統廃合についてどう想定するか」という質問に対し、「小学校1校、中学校1校を維持したい」と町長から回答があった。

学校適正化検討委員会の答申（2024年11月）

1. 早急に八森小学校と峰浜小学校の統合を視野に入れた学校再編計画を作成し、学校再編を図っていくべきである。
2. 学校再編に際しては、地域の特色を充分取り入れ、特色のある教育の充実を図るとともに、幼保小中の連携を含めた八峰町の教育のあり方について検討していくべきである。
3. 学校再編を検討する際には、将来的な児童生徒数や施設整備等を総合的に考慮し、中学校を含めた校舎の配置や町全体の教育環境等を検討していくべきである。

適切な予算執行に向けて

3月議会で予算特別委員会から町に提出した付帯意見に対し、町当局から回答が届きました。要約してご紹介します。（※回答は令和7年5月23日現在のもの）

意見1

観光振興について

世界遺産白神山地という観光資源があるにもかかわらず、観光に結び付いていない。他の自治体に比べメニューやPR不足は否めない。観光関連団体等と協議しながら、今ある資源を十分に活用した観光促進を求める。

回答

白神山地は、青森県と秋田県で異なる入山規制や、インフラ整備の違いもあり、秋田県側で観光資源としての利活用においてハンデとなっている。こうした状況から、両県の白神山地周辺の8自治体が環白神エコツーリズム推進協議会を立ち上げ、観光と保全の両立を図りながら地域振興に取り組んできた。

意見2

遊休施設について

公共施設の解体費が物価高騰などから多額

と連携した、世界遺産を巡る広域観光ルートのインバウンド観光の魅力発信に取り組み。さらに、開催中の大阪・関西万博に、国内の世界自然遺産地域が参加することになっており、当町も白神山地の麓の町としてPRを行う。

二ツ森登山口ルートは、豪雨災害の影響で来年度以降の全面開通を待つ状況だが、今ある観光資源の有効活用を地元観光事業者等からアイデアを募り、情報発信に取り組み。もう一つの目玉である留山は、ブナの森散策が体験でき、アクセス条件もよく木道が整備されていて、幅広い年齢層が気軽に利用できることが最大のメリットとされる。来年度で散策路を改修し、様々な媒体を活用しPR強化に努める。

の費用となっている。現在学校統合に向けた検討が行われており、使用中の施設も遊休施設となることは明らかである。このような施設については、使用しなくなってしまうからではなく、早い段階で施設の利活用について検討や周知を行い、適正管理に努めること。



令和5年度に解体した旧八森小学校の解体費用は8970万円。旧瑞川小学校は今年度1億6320万円を予算計上している。

回答

遊休施設は、維持管理費削減の観点から、民間事業者等への貸付けや譲渡を進めてきた。学校等の大規模施設は、部分利用が多く譲渡に結びつかず、老朽化が進み最終的に解体を余儀なくされること予想される。解体費用が急騰している現状を踏まえ、今

意見3

産直施設について

「産直ぶりこ」については、会員の減少等により本年3月以降、週3日の営業となっている。また、「はちもり観光市」も高齢化が進んでおり、後継者不足などによる営業継続に課題を抱えている。産直施設は観光振興を図る上で重要な施設であり、「おらほの館」を含め将来に向けた検討を行うこと。

回答

「産直ぶりこ」は、平成17年度からスタートしたが、会員の高齢化や業者の撤退などにより、近年は厳しい状況が続いている。本年3月から、より集客が見込め経費の節減に繋がる「土日及び

月曜日」の営業とし、正・準組合員23名が、地物野菜や魚、漬物等の販売を行い収益の改善に努めている。町としても、ショーケースの修理や設備点検費用などの支援を行い、組合と連携しながら、様々な取組を進め集客に繋げる。

「はちもり観光市」は、施設の老朽化や従事者の高齢化はあるものの、会員が鮮魚、野菜や飲食などの提供を行い、地域の魅力を発信している。町としても、空調設備の更新など様々な支援を行いながら、施設の存続を図っている。「おらほの館」は会員の高齢化はあるものの、直近の売り上げは、順調に推移していると聞いている。いずれの施設も人口減少により経営は厳しいと考えるが、町の観光振興に重要な施設であり、できる限り支援する。